

S O U S A K U

創作手工芸



CONTENTS

会長挨拶	2
第44回創作手工芸展 講評	3
第44回創作手工芸展受賞作品	4
講演 渦巻文様/三巴文様の伝統 ーケルト文化から日本の装飾までー	6
平成24年度講習会お知らせ	7
海外展覧会〔フランス展〕	7
平成24年作品展お知らせ	7
2011年書籍出版関係お知らせ	7
資格について	8
事務局だより	8

手工芸哲学



(財)日本手芸作家連合会

会長 花村 邦昭

本連合会の初代会長であった大妻コタカ先生が手工芸について述べられた文章に次のものがあります。

「手芸はどんな大きな、むずかしい手のこんだものでも、一つずつ積み上げて行かねばならない。努力しただけ、はっきり形となって現れるのであるから、したがってしらすしらす勤労の習慣がつく。なお手芸は最後の仕上がりを楽しみに一心不乱に努力を続けて行かなくてはならない。一度に手早く仕上げってしまうことも、また手をぬくことも、仕上がりを悪くする。それゆえ一歩一歩落ち着いて仕上げなくてはならない。このように手芸の実習は大切な精神の落ち着きをしらすしらすの中に養うものである。また、自分で苦心して作ってみてはじめて、ものの値うちがわかるもので、手芸をやっている中に、僅か一本の糸でもそれを有効に使えば、花となり葉となり、決して無駄にできないことをさとする。それに他人の作ったものに対しても、その苦心や勤労に十分同情が出来、心から感謝することが出来るものである」

(昭和6『婦人倶楽部』)。

「婦人が手芸を学ぶということは、日常生活の上に自然に女らしさ、優美さを表す基となるものでありまして、女子にとって大切な要素の一つであります。手芸に熟達しますと自ら新しい種々の考案をするようになりますから、ただ徒に模倣するだけでなく独創力を養い、尚一面に自分の生活内容を美化し、又充実させるのに最も役立つものであります」

(『母の手芸』 昭和14・9 発行<婦女界社>)。

大妻多摩中学高等学校の主幹教諭である 常磐直美先生はこの文章を次のように噛み砕いて生徒への教えとしておられます。

「大妻で学ばせていただいたことは、私の心の財産となっています。

一針一針を大切に運ぶことは、一日一日を丁寧

に過ごしていくことに通じ、一日の積み重ねが一週間、一ヶ月、一年となり一生となる。人生には、思いがけない色々のことがあります。自棄を起こして投げ出さず、粘り強く一針一針丁寧に針を運ぶように生きていくことが大切なのではないか。そして、ものには、自然の恵みと作った人の心が込められているのですから、感謝して丁寧に扱うことが大切である。その感謝の心は、その人のしぐさや立ち居振る舞いとなってあらわれると思うようになりました。

皆さんにとって、ひとつひとつ、自分の人格を積み上げていくものは、何でしょうか。大妻多摩中学高等学校で過ごせる時間に感謝し、どうぞ、気品と知性に満ちた女性へと自分を育ててください」。

コタカ先生にとっての「手芸哲学」は即「人生哲学」、人間の生き方そのものに通じていました。手抜きしない勤労の習慣づけからくる人格の錬成と精神の修養、物を大切にすると他者への同情と感謝、独創力の涵養、生活の美化・充実化、これらはコタカ先生の「手まめ・足まめ」論にも通じています。

コタカ先生はこう言っておられます。

「うちのお母さまは何でも自分達の着る物や持つ物を作って下さるといふ、心の誇りは、何といっても子供の幸福の一つでございます。母の高い趣味性によって選ばれ、作られた製品の数々が、お子様の情操教育上、この上ない成果を示すものであることは、申し上げるまでもございます。優しい心のこもった、母の贈り物の方が(市販の物より)、子供達にとっても、何倍か嬉しいことでございます」(『母の手芸』、『現代手芸全書』(文部省認定) 昭和14・9 発行<婦女界社>中の一冊)。

手芸とは、まさに親子の心をつなぐ「母の贈り物」です。



津波を渦潮に見立てて金銀糸でさした毬。一日も早い復興と未来に向かって春を待つ願いをこめた特別賞の吉田マユミさんの作品。

第44回 創作手工芸展 講評

審査委員長 大 矢 紀



第44回創作手工芸展は、昨年に続き都の美術館の工事による休館のため、大妻女子大学生活科学資料館に於いて華やかに開催されました。会場に一步入ってまず目にとびこんで来たのは特別出展作品の「鹿鳴館時代の衣裳」で、第十一代佐賀藩主 侯爵 鍋島直大・栄子御夫妻の舞踏服、乗馬服のすばらしい服飾でした。非常に華やかな中にもいろいろと、こまやかな配慮があり、当時の上流社会に思いをはせ、この作品を研究、修復、復元された大妻女子大学名誉教授の石井とめ子氏と講師の大網美代子氏の御努力にまずもって敬意を表したいと思います。

さて、本年は審査にあたってアイデアと技術の両面からそれぞれ5点と5点と審査検討する方法で行う事になり、審査員の皆様全員一言も話す事なくただ黙々と作品と対峙し真摯に採点されているのが印象的でした。

「文部科学大臣賞」大塚昌子さんの「額絵の中の下町」は非常にユニークな作品でモノクロの下町の写真を元にいろいろ手を加え立体的に額絵とし、一見地味な中にどう云う風にして創ったのかと見る人に興味をもたせた所の作品でした。

「東京都議会議長賞」手塚慶子さんの「春霞」は正統派のハーダンガー刺しゅうで地色の上品なイエローグレー調の中にこまやかな刺しゅうとデザインが秀逸でした。

「大妻コタカ賞」松本志津美さんの「Water droplet」はスモック刺繍による丸型のデザインで五ヶつつをつなぎなんと楽しく作品です。

「日本手芸作家連合会会長賞」高林由美子さんの「天(そら)」は刺し子による労作で宗達、光琳など琳派の代表作の風神、雷神を配した白黒調の作品です。

「審査委員長賞」平田光政さんの鎌倉彫による「ボタン宴」は非常に豪快な彫りと、しっかりとした牡丹花の姿のよさがすばらしく色合いもよく古武士の感のする作品です。

奨励賞に目を移すとこれ又いろいろ楽しい作品です。

「うさぎの一年」の戸谷勝枝さんの作品は本年のうさぎ年にちなんで押絵のよる羽子板のうさぎ十二枚による表情豊かな一年間の作品で目新しいものです。

「風炉先屏風『ひきたてる』」青木悦子さんの作品は洗い中にもしゃれた様式で茶室はもちろん和室にもさぞかし映えるでしょう。

「微風(そよかぜ)」木村静江さんの衝立刺しゅうは白っぽい色調の中に清楚さを感じ好印象でした。

佳作の作品では「ちょっときどったティタイムに」桑島民子さんのハーダンガーのテーブルクロスは非常に赤の色が渋くシックな色あいで表題の様に一寸ティタイムをしたくなる様な感じでした。

「平成の可愛い十二支達」平山美智子さんの押絵屏風も戸谷勝枝さんと似た作品でしたが楽しい作品です。

新人賞はそれぞれユニークな作品があり「世界の教会」寺澤綾子の三体の編物は若い人らしく慚新さが表れた作です。「なかよし」の田中恵さんのクロスステッチによる写真の様に幼な友達との二人像での作品であり、おどろかされました。「絹をまとう」岩本信子さんのスモック刺しゅうは渋い色調で細かな仕事は感性を感じます。

特別賞には「宙の輝き」池田ちえさんの大胆な作品を中心に十六点が選ばれ、それぞれにすばらしく入選作品ともども今後により期待する所、大であります。

来年の第45回はリニューアルされた上野の都美術館で開催されます。気持ちも新たに新鮮な発想のもと日本の伝統文化の為に一層の御努力に御期待し講評といたします。(日本美術院同人)



特別出展作品

「鹿鳴館時代の衣裳」

第11代佐賀藩主 侯爵 鍋島直大・栄子御夫妻の舞踏服(小袖地ドレス、仮装舞踏服)、横鞍用乗馬服

*「鹿鳴館時代の衣裳」の論文1~3報を間違えて持ち帰った方は、事務局に返送してください。

第44回創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞
「額絵の中の下町」
大塚 昌子

この度文部科学大臣賞ありがとうございました。幼い頃より母の傍らでボタン付けを習い、父の膝の上で絵を描き、家庭科の先生を夢に見て、あらゆる手仕事を習い、今は孫にセーターを編み、甚平さんを作りと若い頃に習った事が今になって昔を思い出しながら、何とか形になっております。

今日のような天変地異、いつになにか起こるわからない時、せめて心にゆとりを持ち、手仕事を通して少しでも穏やかに、やさしい気持ちを持っていたいと思います。

まだまだ知りたい事や挑戦したい事がたくさんあります、日本手芸作家連合会を通じ、もっともっと、前進していきたいと存じます。



大妻コタカ賞
「Water droplet」
松本 志津美



東京都議会議長賞
「春霞」
手塚 慶子



日本手芸作家連合会会長賞
「天(そら)」
高林 由美子



審査委員長賞
「ボタン宴」
平田 光政



奨励賞
「うさぎの一年」
戸谷 勝枝



奨励賞
「風炉先屏風『ひきたてる』」
青木 悦子



奨励賞
「微風(そよかぜ)」
木村 静江



佳作
「ちょっときどったティタイムに」
桑島民子



佳作
「平成の可愛い十二支達」
平山美智子



新人賞「世界の教会」寺澤綾

今回、初めての出品で新人賞を受賞することができ感激しております。
出品した作品は卒業制作の一部でもあり、編み上げる際に、大学の先生方をはじめ、高校時代からお世話になっている先生のご指導、応援があったから出来た作品だと思っております。今後もこの賞に満足することなく、これからも編み物で美しく、クオリティの高い作品を編んでいきたいと思っております。

新人賞「絹をまとう」岩本信子

このたび第44回創作手工芸展では、スモック刺しゅうの作品で新人賞をいただきありがとうございます。思いがけないことで、嬉しさも一入でございます。懐かしいこの刺しゅうを思い立った折、幸い松本志津美先生にめぐり合い明快なご指導のもと10年余り続けて参りました。

多く自分の身のまわりのものに活かし楽しんでおります。何よりのご褒美をいただき感謝し、これからも励んでゆきたいと存じます。

今回の手工芸展、表賞式に伺いこの会の発展のため多くの先生方のご尽力に改めて御礼を申し上げます。多彩な作品から新鮮な刺激を受けました。

これからもどうぞよろしくご指導をお願いいたします。

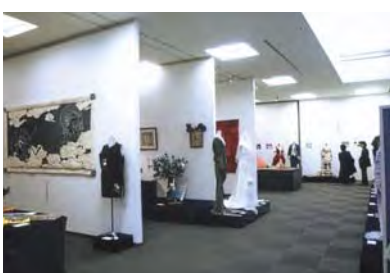


新人賞「なかよし」田中恵

この度は思いもよらず新人賞を戴き、身に余る光栄に存じます。
日々成長していく娘の大切な瞬間を残しておきたいーその思いが作品づくりのきっかけとなり、卒園目の娘の姿をクロスステッチで表現しました。

ひと針進むごとに、あどけない二人の表情が現われ、楽しみながら針を進めることが出来ました。今回このような賞を頂戴することができ、公募を勧めてくださった先生並びに審査員の先生方、見て下さった多くの方々に心より感謝申し上げます。受賞を胸に今後もより一層の精進をして参ります。

最後に(財)日本手芸作家連合会の益々の発展と先生方のご健勝を祈念いたしまして、お礼の言葉と代えさせて戴きます。



会場



花村会長によるテープカット

渦巻文様／三巴文様の伝統

—— ケルト文化から日本の装飾まで ——

鶴岡真弓（多摩美術大学 芸術学科 教授＋芸術人類学研究所 所長）



◎はじめに

本日は、栄えある第44回、日本手芸作家連合会の創作手工芸展を記念する機会に、講演者としてお招きいただきまして、心より御礼を申し上げます。日本と世界の伝統文化と精神を受け継ぎ教育研究活動に邁進されておられます、ここ大妻女子大学で、その優れた諸作品に審査と展示で接させていただき、多くを学ばせていただきました。大妻学院理事長・連合会会長の花村邦昭先生、副会長の石井とめ子先生ほか御尽力いただいております諸先生方はじめ、応募されました皆さま、また本日の講演においてくださいました皆さまに、冒頭で篤く感謝申し上げます次第です。

◎文様とは何か

さてきょうは、服飾から家具調度から建築にいたるまで、手工芸の表現を豊かに彩ってきた、ユーラシア世界を貫く「伝統文様」、なかでも普遍的な「渦巻文様／三巴文様」についてお話をさせていただきますと思います。

「文様」は祈りの「装飾」であり、「飾」の漢字の成り立ちにもそのおおもとの意味が表されていることに気付かされます。「飾」とは、「神の前で食」する「人間」が、「布巾」を持って、自分の身と周りを「浄めている」姿を現しているのです。

あらためて言えば、みなさんが手工芸を創作されるとき、まず「色・カタチ・質感」という3つの要素をお考えになると思います。古来人間は、手芸・工芸・建築・デザイン、いや絵画や彫刻というファイン・アート（美術）においても、「文様（オーナメントornament）」を豊かに創り出し用いて、そこに「生命の輝き」や、「宇宙自然の破たんなき安泰なめぐり」を祈り、表してきたのでした。

たとえば私たち日本文化には、夏の和装の帯には涼しさを醸し出す「雪輪」文様。畳の縁取りには目出たい「亀甲文様」。お茶碗は福をもたらす童子の「唐子文様」など、さまざまな「文様」が生活のなかに散りばめられております。すなわち「文様」とは人間が生きる、その人生の節目、節目で、「命のしるし」として、しるしてきた重要な造形表象であり、創り手は文様のひとつひとつに、命の祈りを込め、織り込み、刺繍し、染めつけ、描いてきたのでした。

飛鳥時代に日本に入った薬としての「牡丹」も、あるいは鍋島の大皿などによくみられる「宝尽くし」も、源氏物語に舞の名としても登場する「青海波」も、あるいはたんすの扉に金具で付けられる「蝶」も、これらはすべて「文様芸術」として、日本でも営々と手工芸をとおして私たちの「衣食住」の「美化」や「豊かさ」のために表現されてきたのです。

その代表的なものが中国や韓国で総称される「吉祥文様」であるわけですが、日本にはなんと1万年以上も前の縄文時代から、やはり生命の輝きを願う縄目文様や渦巻文様が創られ土器などに施されてきました。

こうした文様の豊富な伝統をみますと、人間が創造する手工芸とは、平安や幸福や長寿などの願いを具体的なモノ、素材、色、カタチ、質感で表現する「祈り」の営みであることが、よりよくわかってまいります。何万年も前から人間は、人間もその一部である宇宙・自然の生きとし生けるものに、大いなるヒント、アイデアを恵みとしていただき、「動物・植物・鉱物・幾何学」などの姿かたちを、祈りを込めてデザインし、それらのものに「文様／オーナメント」を施してきたのでした。それは祈り・願いを込めることによって、宗教的営みといえます。

◎ケルトの渦巻文様／三巴文様

ところで私は子どものころから、「日本列島」の地理的位置が、ユーラシア世界の「東のきわみ」にあることに興味をもっていました。「きわみ」という言葉は耳によい響きがありますがけれども、英語ではご存じのように極東（ファー・イースト）と呼ばれ、ヨーロッパやアメリカなどの19世紀の近代先進国からみると、日本には中心から遠い「端っこ」というイメージが貼り付けられていました。しかし私は世界地図を眺めるとき、日本は、日本海を越えた西側に向かって、「ユーラシア大陸」と向き合っていること。そのユーラシア大陸は地球上で最大の大陸であり、そこには太古の時代から何万年もの、人間が、ものを創り、美しきものを探求してきた「諸民族の文明」と「接してい

る」こと。そこに注目しなければ、「日本文化」の「美」も根本から知ることはできないと思ってきました。

そしていつか「ユーラシア大陸に上陸して、いろいろな民族の人々の伝統工芸や美しいものに会いたい！」という夢を持つようになり、そこでいくばくかでも自由に行動できる大学生になったとき、1970年代の初頭に、現在のロシア連邦がソヴィエトであった時代でしたので、横浜港からソヴィエト船で、ユーラシアに旅立ちました。ナホトカに上陸し、ハバロフスク、イルクーツクを経てモスクワ、そしてフィンランド湾からヨーロッパに入り、諸国をめぐる、ジブラルタルを渡り北アフリカ（スペイン領セウタ）まで旅して、諸民族の服飾や工芸の「文様」と直に出会うことができました。

そのなかであらためて早稲田大学の美術史の学生として、アイルランドの中世の修道院でつくられた聖書の「装飾写本」である『ダロウの書』（680年ごろ）や『ケルズの書』（800年ごろ）の「装飾」「文様」の研究でアイルランドの首都ダブリンの大学に留学し、羊皮紙の上に驚ペンで描かれた「ケルト文明」伝統の「渦巻文様」と向き合う日々を送り、このような回転体文様が「西はケルト」から「東は日本」まで、広大なユーラシア世界を貫いて、大交流した痕跡が見えてきました（図1 『ダロウの書』型のケルト渦巻文様）。



この文様の特色は①大きな渦の中に小さな渦が無限に増殖し、中国のことわざの「壺中天（壺の中に広大な宇宙がひらかれる）」が言うとおりの、②小さなミクロの世界の中に巨大なマクロの世界が開けてゆく、という幻視の構造をもっていること。

◎「再生」を祈る文様

そしてこのケルトの渦巻文様はとくに「三巴文様」を最重要のカタチとしていること。すなわち、宇宙・自然・あらゆる物事は、「1」と「2」のバランスの上に、「3」つめを加えることによって、はじめて「回転＝動きを創造することができると」いう思想です（図2 ケルトの三巴文様）。



これは古代ケルトでは人間や生き物は「生→死」で終わるのではなく、つねに「再生している」、すなわち「生→死→再生」の3つの永遠の廻りの中に、宇宙自然と私たちの営みがあると考えてきました。したがって今日のケルト文化圏であるブリテン諸島のアイルランド、スコットランド、ウェールズ、コーンウォール、マン島とブルターニュ（フランス西部）の土地の人々は、彼らの伝統文様としてこれを「トリスケル（三巴）」と呼び、現代ではTシャツからCDのジャケット、ジュエリー、座布団から、マフラー、ステンドグラス、陶磁器などのデザインまで、さまざまな手工芸の装飾に表現しています。渦巻文様／三巴文様は、いわば「ケルト民族」のアイデンティティの造形であります。

日本にはこの文様が武家の紋や神社の紋などとして中世から公に用いられ今日に至っています。しかし遡って古墳時代の剣の柄の装飾の、龍や鳥とおぼしき動物文様の形態にも、渦巻や三巴の構造が現れています。これは明らかに古代から、西はケルト文明から東はインドや中国などにもユーラシア世界の諸民族が共有した、生命への祈り、宇宙自然の絶え間ない廻りへの祈りが込められた普遍的な文様ということができます。日本もまたそのことによって「ユーラシア世界の一員」なのです（図3 日本の三巴文様）。



今後皆さまが手工芸を創作されてゆくと、こうした「文様」が、宇宙自然のかたどりであり、人間の「再生」への祈りのかたち、結晶であるということを思い出し、いっそう創造に邁進していただければ幸いです。

■参考文献：鶴岡真弓『装飾する魂』平凡社、鶴岡真弓＋松村一男『ケルトの歴史』河出書房新社

平成24年度 講習会お知らせ

事業の一環として、10月までの計画を記載致します。講習会に関しては今年度も、日本橋越前屋さんのご好意をもって行われます。(第2土曜日) 10:30~16:00 (詳細はホームページまたは事務局まで)

月	氏名(先生)	内 容 (予定)
4月	大塚 昌子	タイル絵付
5月	庄子 悦子	粘土工芸 (可愛い動物)
6月	道家 絢子	レース (サシェ)
7月	神山 康子	カルトナージュ (バインダー又はメモカバー)
9月	池田 節子	カード織 (ミニ額)
10月	高木 弘佳	ステンシル (ミニ手提げ)

特別講習会 (地域交流を目的とする)

会 場：大妻コタカ記念会館

日時等：4月27日(金) 10:30~15:30 ちりめん・まり 講師：管原美東
6月22日(金) " 七夕飾 講師： "

海外展覧会 [フランス展]

〔Japan Expo〕に財団法人日本手芸作家連合会主催として出展

日 時：平成24年7月5日(木曜日)~8日(日曜日)

場 所：Parc de Expositions (フランスパリ ノールヴィルパント展示会会場)

ジャパンエキスポとは、「日本文化を知る場」として開催されるフランス展です。本会の会員達による手工芸作品の奥深さと美を紹介し、日仏文化交流に貢献します。

平成24年 作品展お知らせ

氏 名	テ ー マ	会場(所在地)	会 期
土 門 玲 子	刺し子「遊佐刺し子に遊ぶ」	山形県郷土館	5/2~5/6
"	土門玲子作品展と体験教室	イギリス	5/10~11末
大塚 昌子	タイル絵付 オランダ人講師によるワークショップ	東京都立川市柏町「マードレー」アトリエ	4/26、4/27
徳 留 文 穂	カナリア刺繍の会 ミニ作品展	市川市 藤沢市	5/1~5/15
山 本 尋 子	大岡越前祭 参加 染展示即売	茅ヶ崎市民文化会館	4/20~4/22
大 網 美代子	親子で楽しむリメイク講習~エコバッグを作ろう~	大妻女子大学千代田校舎	8月
池 田 悦 子	「草木染め」講座	相模女子大学翠葉カルチャーセンター	3/7、9/5
佐久間 恭子	第64回三軌展	国立新美術館 他	5/16~5/28
片 山 理恵子	フラワードリーム2012 in 東京ビッグサイト 他	東京国際展示場 他	6/30~7/1
平 山 泰 子	刺繍 第20回創作手工芸 梅支部展	福岡NHKギャラリー	9月
山 本 昭 子	中国新聞文化センター主催 展示会 布の花	福屋デパート広島駅前8F	4/19~4/21
佐 伯 淳 子	中国新聞文化センター主催 作品展 手づくりフェスタ	福屋デパート広島駅前8F	4/19~4/24
管 原 美 東	福岡文化連盟秋祭り	福岡市立美術館(変更の可能性あり)	9月

2011年 書籍出版関係お知らせ

氏 名	タ イ ト ル	発 行 元	発売日
横 田 圭 子	かんたんカルトナージュに刺繍をアレンジに	主婦の友社	12月
"	和紙で作るカルトナージュ小物	スタジオタッククリエイティブ	4月
松 本 志津美	小冊子 SMOCKS	松本志津美	5月31日
土 門 玲 子	続・遊佐刺し子に遊ぶ	有限責任事業組合「遊佐刺し子ギルド」	



資格について

当連合会は手工芸教育の普及発展を目的として、手工芸指導者の養成教育（資格認定・免状授与）、手工芸セミナーなどへの指導者の派遣、社会教育としての指導者の派遣（中学・高等学校）、生涯教育の指導者派遣などを通して国内外にて手工芸技術・技術向上のための研修会、講習会を実施しております。資格制度については本会の「ご案内」をご参照ください。

平成23年度免状取得者

助教授	足立幾子（欧風刺繍）
〃	安藤清子（デコパージュ）
〃	大歳栄子（フランス刺繍）
〃	横畠留美（日本刺繍）
講師	佐々木節子（刺繍）
高等科	安達静枝（スモック刺繍）
普通科	杉田真由美（ハーダンガー）
〃	鈴木朋世（欧風刺繍）

◎資格取得へのおすすめ

日本手芸作家連合会はさまざまな手芸の分野で手芸作家として資格を取得し、趣味を通して共通の友とグループ活動を楽しみ、制作作品は自分の希望がみえて来ます。

年齢を重ねるごとに趣味の内容が充実し、共に制作する人にとっても、指導する人にとっても生涯学習の満足が実感です。

資格は活動指導していくのに自分自身の自信、周りへの信頼につながるのではないかと思います。（財）日本手芸作家連合会は手工芸作家の集りです。

資格取得は生涯学習の宝です。

事務局だより

▷▷▷ 第45回 公募 創作手工芸展

会 期：平成24年11月7日(水)～15日(木)

場 所：東京都美術館

公 募 料：一般¥10,000 会員¥8,000 学生¥5,000

募集要項：平成24年5月、詳細については応募申込書、またはホームページ等をご参照ください。

申込期間：平成24年6月1日(金)～9月30日(日)

お申込みの方から順次、公募要項をお送りします。

▷▷▷ 創立45周年 記念行事

平成24年12月予定

特別講演会、特別展示、即売会を行います。どなたでも自由に参加できますが、即売作品は会員のみになります。

▷▷▷ 投稿のお願い

会員の皆様の投稿をお待ちしています。支部、教室の展覧会・講習会などの活動をホームページに掲載しますので事務局までお知らせください。なお、当会の「後援」を希望の方も事務局までご一報ください。

▷▷▷ チャリティ in (被災地 第44回公募創作手工芸展)

東日本大震災チャリティ作品については、平成23年11月5日着の方は、すでにプログラムに御名前を公表しておりますが、11月5日以降到着の方は、岩切哉寿、毛塚慶子の各先生です。ご協力ありがとうございました。

編集後記

(財)日本手芸作家連合会が設立されてから本年45年を迎えます。また、東日本大震災から1年が経過、絆をテーマにさまざまな視点から活動してまいりました。また、行政改革による新しい時代に向けて多面的な事業をご案内しました。本誌をはじめ、本会のホームページが皆様にふさわしい活動の場となることでしょう。ご意見をお寄せください。（編集部一同）

題 字：中村幸雄

表紙作品：松本志津美

発効日／2012年4月吉日

発 行／(財)日本手芸作家連合会

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

M・Oビル 407号室

T E L 03-5282-5141

F A X 03-5282-5140

E-mail:info@syugei-sakka.jp